

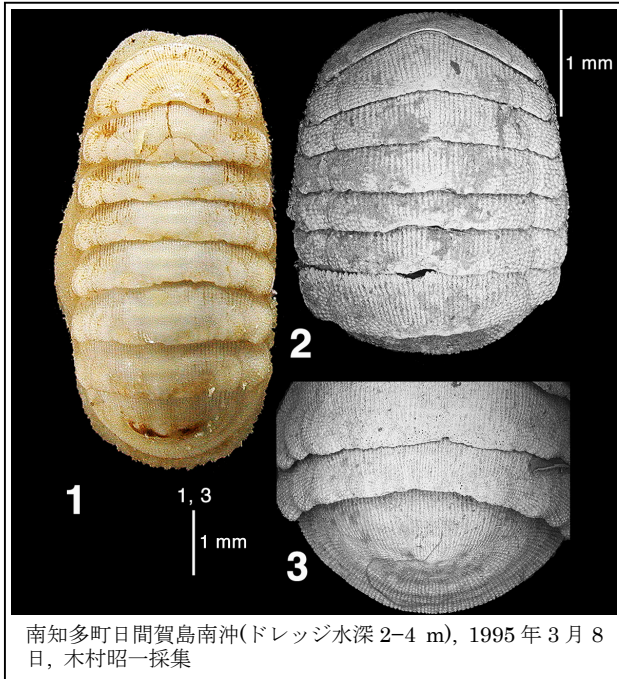
キタサメハダヒザラガイ *Leptochiton hakodatensis* (Thiele)

【選定理由】

近年本種は三重県英虞湾(木村・他, 2015)、伊勢湾口部の鳥羽市生浦湾(木村・他, 2015)、愛知県三河湾(木村, 2016; 早瀬・他, 2016)からキタサメハダヒザラガイ近似種として産出が報告された。齋藤・他(2016)により、これらは瀬戸内海の個体群とともに、それまで東北以北に分布するとされていたキタサメハダヒザラガイと同種とされた。本種は稲葉(1982)が東北・北海道型と定義した、「内海が太平洋側の分布限界である、外海では生息し得ないが、低温・低塩分の内海に生息している貝類群集」に含まれる。また本種の生息環境は、よく保全された多様性の高い貝類相を示す一部の内湾域に限られており、個体数も非常に少なく、絶滅の可能性が高い種であると評価された。生物地理的にも貴重な本種の保全は不可欠である。

【形態】

体長約 10 mm、潮間帯付近に生息するヒザラガイ類としては小型。体全体は礫などに付着している時には通常伸展していて、付着基盤から剥離すると腹側に屈曲する。伸展した体は縦方向に中央が隆起した扁平な小判型で、背面には 8 枚の殻板(貝殻)が並ぶ(図 1)。殻板、肉帯ともに淡黄白色で特徴的な色彩である。愛知県の潮間帯から浅海に生息する他のヒザラガイ類とは色彩の特徴だけでも区別できる。殻板は低く、背部は角張らず丸みを帯びる(図 2)。殻表の顆粒は、中間板の中央部では縦列であり、頭板、中間板側域、尾板後域では放射列となる(図 2, 3)。



南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 2-4 m), 1995 年 3 月 8 日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県内での最初の分布確認例は 1995 年に三河湾湾口部日間賀島南沖の潮下帯よりドレッジで採集された 5 個体で(木村, 2016)、その後 2015 年、西尾市梶島の潮間帯より 1 個体採集されたにすぎない(早瀬・他, 2016)。現在までに、他の海域では分布が確認されていない。

【世界および国内の分布】

近年の研究ではオホーツク海南部、日本海北部、東北以北に分布する(齋藤, 2000)とされているが、横浜沖や長崎の分布記録もあり(瀧, 1965)、日本国内では北海道以外では本州から九州にかけての内湾環境に分布域をもつ可能性がある(早瀬・他, 2016)。

【生息地の環境／生態的特性】

潮通しの良い礫砂底に生息し、本種が生息する海域は貝類の多様性も高い。豊川や矢作川など比較的大きな河川流入がある上に水深も浅いため、冬季の水温低下の著しい三河湾の環境が北方を主分布域とする本種の生息に適している可能性もある(早瀬・他, 2016)。ヒザラガイ類は元々愛知県内の貝類の中でも分布記録が多い分類群ではないが、体全体が淡黄白色で非常に特徴的な本種の分布記録が近年まで全く無かったことから、以前から希少な種であった可能性も考えられる。生態的特性についてはほとんど知られていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息状況は、【選定理由】・【分布の概要】を参照。英虞湾の本種の生息地は、潮通しの良い転石地で比較的個体数は多い。この生息地と比べると三河湾の 2 産地では著しく個体数が少ない。この個体数が著しく少ない要因として、本種は内湾域ではあるが潮通しの良い、泥分の少ない礫砂底に生息することから、水質汚濁、底質環境の泥質化、有機物量の増加などの影響を受けやすい種であることが考えられる。

【保全上の留意点】

現在本種が生息確認される海域の環境を維持することが重要である。特に本種の生息基盤としての泥分の少ない礫砂底を含めた、潮間帯から潮下帯に連続する生息環境を保全する事が重要である。

【特記事項】

生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、瀬戸内海、伊勢湾の個体群については、今後絶滅危惧個体群とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

齋藤寛・濱村陽一・木村昭一・河辺訓受, 2016. キタサメハダヒザラガイの分布記録. 日本貝類学会平成 28 年度大会講演要旨集.
早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・川瀬基弘・林 誠司・西 浩孝・守谷茂樹・石井健一郎・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男, 2016. 梶島(三河湾)の潮間帯貝類相. かきつばた, (41): 27-39.
稲葉明彦, 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 向島.
木村昭一, 2016. 三河湾日間賀島沖で採集されていたキタサメハダヒザラガイ近似種. かきつばた, (41): 25-26.
木村昭一・早瀬善正・河辺訓受・矢橋 真・林 誠司・河合秀高, 2015. 鳥羽市麻倉島のヒザラガイ類相(観察調査報告). かきつばた, (40): 17-22.
齋藤 寛, 2000. サメハダヒザラガイ科. pp.5-9. In: 奥谷喬司(編著) 日本近海産貝類図鑑. 1173pp. 東海大学出版会, 東京.
瀧 巖, 1965. ひざらがいが綱 (POLYPLACOPHORA). pp.5-13. In: 岡田 要(著) 新日本動物図鑑 [中]. 803pp. 北隆館, 東京.

(木村昭一)